

令和 8 年 8 月 7 日
気象庁大気海洋部

配信資料に関するお知らせ

～「危険度分布の基となる表面雨量指数」の
配信資料に関する仕様 No. 10601 の一部変更について～
(配信資料に関する技術情報第 446 号, 第 664 号関連)

「危険度分布の基となる表面雨量指数」の配信資料に関する仕様 No. 10601 について、配信資料に関する技術情報第 446 号及び第 664 号で掲載した仕様から、情報名称の変更などに伴い、別添のとおり一部記述を変更しましたのでお知らせします。

配信資料に関する仕様 No. 10601
～危険度分布の基となる表面雨量指数～

1. 概要

表面雨量指数とは、短時間強雨による浸水危険度の高まりを把握するための指標です。降った雨が地中にしみ込みやすい山地や水はけのよい傾斜地では、雨水が溜まりにくいという特徴がある一方、地表面の多くがアスファルトで覆われている都市部では、雨水が地中にしみ込みにくく地表面に溜まりやすいという特徴があります。表面雨量指数は、こうした地面の被覆状況や地質、地形勾配などを考慮して、降った雨が地表面にどれだけ溜まっているかを、タンクモデル等を用いて数値化したものです。表面雨量指数は、浸水災害と密接に結びついた指標として、大雨の警報~~（浸水害）・大雨注意報等~~の発表基準に用いられるとともに、~~大雨警報（浸水キキクル害）の危険度分布~~の基となっています。

2. ファイル形式及びデータの概要

ファイル形式は、国際気象通報式 FM92 GRIB 二進形式格子点資料気象通報式（第 2 版）（以下 GRIB2）です。

日本国内の陸上を対象に地表面を約 1km 四方の領域（緯度 0.5 分・経度 0.75 分）に分割し、それぞれの領域で計算された表面雨量指数の実況値・予測値を 10 分間隔の作成頻度で提供しています。

具体的なデータフォーマットについては別紙 1 を参照願います。

ファイル形式		GRIB2
格納要素		表面雨量指数
格子系	格子系	等緯度経度
	配信領域	北緯 20 度～48 度 東経 118 度～150 度（図 1 参照）
	格子の間隔	0.0083 度（緯度）×0.0125 度（経度）
	格子の数	3360（緯度）×2560（経度）
予報時間等		解析時刻、速報版降水短時間予報による 1 時間先までの雨量予測に基づく 10 分毎の予測、速報版降水短時間予報による 6 時間先までの雨量予測に基づく 1 時間毎の予測（それぞれ別ファイル）
作成頻度	実況値	10 分毎
	1 時間予測値	10 分毎
	6 時間予測値	10 分毎
ファイルサイズ	実況値	約 90KB
	1 時間予測値	約 500KB

	6 時間予測値	約 500KB
--	---------	---------

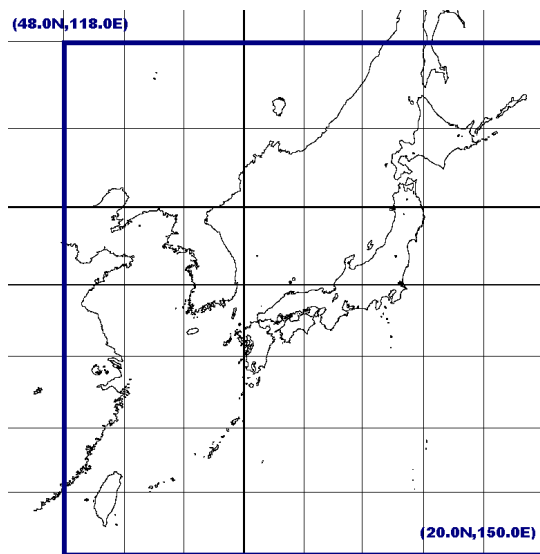


図 1 計算領域(計算対象は国内陸上格子)

3. ファイル名

- ・ 表面雨量指数実況値

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_GPV_Ggis1km_Pfpi_Aper10min_ANAL_grib2. bin

- ・ 表面雨量指数 1 時間予測値

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_GPV_Ggis1km_Pfpi_Fper10min_FH0010-0100_grib2. bin

- ・ 表面雨量指数 6 時間予測値

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_MET_GPV_Ggis1km_Pfpi_Fper10min_FH01-06_grib2. bin

※ Z と C の間にはアンダースコアが 2 個設定されている点に注意してください。その他のアンダースコアは 1 個です。yyyyMMddhhmmss はデータの年月日時分秒を UTC（協定世界時）で表します。

4. サンプルデータ

サンプルデータは（一財）気象業務支援センターに提供しておりますので、必要な場合は同センターへお問い合わせください。

5. 利用にあたっての留意事項

別紙 2 を参照願います。

6. 障害時やメンテナンス時の対応

システム障害等により、当該気象情報の作成が不可能となった場合、データの再送は行いません。あらかじめご承知おきください。

【改訂履歴】

○令和 8 年 2 月 25 日

「2. ファイル形式及びデータの概要」、「3. ファイル名」を一部修正。

○令和 8 年 8 月 7 日

新たな防災気象情報の運用開始に伴う変更

表面雨量指数の利用にあたっての留意事項

- (1) 表面雨量指数は、浸水深を計測・計算したものではなく、その場所に降った雨による浸水危険度を表現した指数です。
- (2) 表面雨量指数は、「タンクモデル」という手法を用いて、1km 四方ごとに降った雨が地表面に溜まっている量を模式的に計算したものです。表面雨量指数の算出にあたっては、土地利用状況に応じてパラメータの異なる2種類のタンクモデルを用いているほか、地形勾配に応じた補正係数により地形の影響を考慮しています。ただし、下水道や排水ポンプの整備状況等の要素は指数算出においては考慮されておらず、これらの要素は、大雨の警報・~~注意報等~~の発表基準など、過去に発生した浸水害との関係に基づく基準値※に一定程度反映されています。
※ 警報・注意報基準は気象業務支援センターを通じて提供しているほか、気象庁ホームページの以下の URL に掲載しています。
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kijun/index.html>
- (3) 利用や解説にあたっては、過去に発生した浸水害との関係に基づいた基準（大雨の警報・~~注意報等~~の発表基準など）と比較することにより、当該地点の表面雨量指数がどの程度の値になればどのような現象が発生する傾向にあるかを把握しておく必要があります。
- (4) 気象台では、予測精度や気象状況等を総合的に判断して警報・注意報を発表しています。このため、表面雨量指数を基準と比較した結果と大雨の警報・~~注意報等~~の発表状況とは必ずしも一致しない場合があります。
- (5) 気象庁ホームページの表面雨量指数の解説も参照願います。
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/hyomenshisu.html>
- (6) 表面雨量指数をホームページ等に掲載する場合には、基準と比較した結果や、基準と比較しやすい形式で表示することにより、警戒・注意を要する状況であるかどうかを分かるようにする必要があります。